



義村浩平

よしむら・こうへい
株式会社義村商店 常務取締役

1989年生まれ、筑国内ヶ丘ベニシアの創立大学で文学士号、青山学院大学で経営管理修士号を取得。都内勤務後、徳之島の島民である徳之島に帰郷し、父が経営する株式会社義村商店に入社、高齢化・人口減少がすすむ一方で、世界自然遺産に選ばれるなど、ブランド価値が高まりつつある徳之島の可能性を探求中。

武内直亮・ブレインマークスビジネスコンサルタント 学生時代は放浪の筆をふるはれて生活を送っていたそうですね。
義村浩平・義村商店常務取締役
家業の教育方針で中学生になったときに鹿児島市内の学校に入学するため徳之島を離れ、学生時代はずっと島外です。

10年後をリードする 未来企業 116

「徳之島をどう盛り上げていくか」を軸に 3代にわたってスーパーやコンビニを経営!!

徳之島(鹿児島県徳之島町)を拠点とする株式会社義村商店は、総合スーパーマーケット「ダイマル」のほか、全国チェーンのコンビニエンスストア「ファミリーマート」や100円ショップ「キャン★ドゥ」などのFC店を展開する小売企業だ。徳之島の住民に「都会と同じような消費環境を提供する」ことを目指す一方で、地域密着型のサービスにも取り組んでいるという。はたして、3代目の義村浩平常務は今後、どのようなビジョンを描いているのか。さっそく、その夢と想いに株式会社義村商店の武内直亮氏がアプローチした。



上/総合スーパーマーケット「ダイマル」の外観
下/にぎわう「ダイマル」の店内

きました。そして、ワイラゲルフィア(米国ペンシルベニア州)の大学に進学し、商売とはほとんど関係のない分野を専攻していました。その後、帰国して都内で働いているときに家業を継ぐ意識が芽生え、MBA(経営管理修士号)を取得しました。

武内 大学進学時は家業のことをごとく思っていましたか。
義村 大学進学時は正直、それほど関心はなく、「ほかに向いていることがある」と考えていました。しかし、家業の事情を真摯に考え、徐々に「継ぐのは自分しかない」という現実を理解するようになり、入社を断るのを、実家に戻らざるを得ない状況になりました。武内 御社は義村常務の祖父である義村浩吉氏が戦後すぐに創業し、今では島のライフラインのひとつとして重要な役割を担っています。地域に必要な老舗企業を継ぐということで、ブレインマークスを感じたのもあったのではないですか。
義村 入社した時点ではそれは意識していませんでしたが、最近になって責任重大だと感じられるようになりました。島に戻ってからはしばらくの間は、島での暮らしや仕事に慣れるのに精一杯で、当社が多くの人の心から頼りにされていると気づけなかったのかもしれない。

武内 自社の特色や強みをどのように捉えていますか。
義村 当社は「都会と同じような消費環境を提供する」ことを目指して掲げており、当社が運営する総合スーパーマーケット「ダイマル」は島内の精華街に

あり、地域コミュニティの中心的な役割をはたしています。また、当社のFC店舗も島内のいたるところに点在しています。そうやって業種を刷新しながら、徳之島の方々の日々の暮らしを総合的にサポートしているのです。

一方で、最近では徳之島ならではの生活様式に対応できるサービスにも力を入れています。その一例が、2019年から始めた移動販売車による食料配給です。今でこそ少子高齢化と人口減少に対応するサービスとして定着した感のある移動販売車ですが、当時はまだ先行例が少なく、鹿児島での当社の取り組みは全国的に注目を集めました。今後さらなる高齢化がすすむ、これまでに以上に「買い物困難者」が増加していくであろうから、移動販売車のサービスをブラッシュアップし、地域の「見守り隊」としての役割も担ってきたいと考えています。

武内 スーパーやコンビニについては、競合他社とどのように差別化をはかっているのでしょうか。
義村 ちょうど私が徳之島に戻った頃に、九州圏で大手のドラッグストアが島に参入してきました。そこで当社の既存店舗の売場をリニューアルし、惣菜・精肉・日配品の品数・品揃えを強化するなどして存在感をアピールしたところ、あらためて地域の皆さんの支持を得ることができました。こうした競合は越境へのサービス向上にもつながるので、あらたな挑戦への機会として前向きに捉えています。

武内 今後、どのようなことに挑戦していきますか。
義村 基本的にはお客さまのニーズと社員の変革にもつきながら、前々としてビジネスを展開していきたいと思っています。な



明るく元気なスタッフの皆さん

武内 今後の成長の力となるのではないのでしょうか。義村常務は消費者の要望だけでなく、社員や事業にかかわる人たちの声にも耳を傾けながら、新しい挑戦や社内改革に取り組んでいるので、当社としても全力で後押ししていきたいと思っています。

武内 今後の成長の力となるのではないのでしょうか。義村常務は消費者の要望だけでなく、社員や事業にかかわる人たちの声にも耳を傾けながら、新しい挑戦や社内改革に取り組んでいるので、当社としても全力で後押ししていきたいと思っています。

武内 今後の成長の力となるのではないのでしょうか。義村常務は消費者の要望だけでなく、社員や事業にかかわる人たちの声にも耳を傾けながら、新しい挑戦や社内改革に取り組んでいるので、当社としても全力で後押ししていきたいと思っています。



武内直亮

たけうち・なおあき
株式会社ブレインマークスビジネスコンサルタント
大手CVS(コンビニエンスストア)で、財務改善、経営改善、経営支援を推進。企業の「本質的な課題解決」に尽力し、多くの経験と実績を積み重ねてきた。人材育成を中心とした人事評価制度の構築や経営を中心とした自営生活を営み出す組織づくりを得意としている。幅広い経験と実績に裏打ちされたコンサルティングスタイルはクライアントから高い信頼を獲得している。

10年後のためのアドバイス!

創業者の義村浩吉氏は戦後から事業をはじめ、1947年に食料品店を開業しました。その屋号である「義村商店」を引き継いだ同社は、長年にわたって徳之島の皆さんに食料品をはじめとする生活必需品を届けつけています。この生活インフラともいえる基盤を守りながら、より地域ニーズに柔軟に対応し、「買えるところは買っていく」ことが今後の成長の力となるのではないのでしょうか。義村常務は消費者の要望だけでなく、社員や事業にかかわる人たちの声にも耳を傾けながら、新しい挑戦や社内改革に取り組んでいるので、当社としても全力で後押ししていきたいと思っています。